

[成果情報名] パインアップル「ゴールドバレル」のハウス栽培による高品質果実生産技術

[要約]生食用パインアップル「ゴールドバレル」は、ハウス栽培において 10 月下旬～11 月中旬に花芽誘導処理することで、大果で糖酸比の高い果実が 5 月中旬から収穫でき、露地栽培の自然夏実にくらべ 2 ヶ月程度収穫期が前進化し、収益性の向上が期待される。

[キーワード]パインアップル、ゴールドバレル、ハウス栽培、花芽誘導処理、収穫期

[担当]沖縄県農業研究センター名護支所・果樹班

[代表連絡先]電話 0980-52-0052

[分類]普及成果情報

[背景・ねらい]

2009 年に品種登録された「ゴールドバレル」は早生で大果な品種である。黄色く柔らかい果肉が特徴で、外観、食味とも良好であることから高級果実生産を目的とし、生産量も増加しており、収穫期の拡大が求められている。しかし、沖縄本島北部地域は、パインアップルの経済栽培の北限に位置しており、露地栽培で収穫期を前進化すると低温などの気象要因に起因する小玉化や裂果、緑熟果の発生など果実品質の低下が問題となる。そこで本試験では、ハウス栽培における、適切な花芽誘導処理時期を明らかにして、収穫期拡大と高品質生産を行う技術を体系化する。

[成果の内容・特徴]

1. パイプハウスに、低温期（11 月下旬）～収穫終了（7 月上旬）までビニールを被覆し、ハウス内温度を上限 35℃の条件で側窓を開閉することにより、被覆期間の平均気温は約 23℃となり、露地栽培にくらべ平均気温が約 3℃上昇し、生育や果実肥大が促進され、いずれの花芽誘導処理時期も収穫時期が 1 ヶ月程度早まる（図 1）。
2. ハウス栽培における 9 月中旬の花芽誘導処理は、収穫期が低温期にあたるため、糖酸比が低い果実割合が増加し、褐斑症が発生する。また、10 月上旬の花芽誘導処理は酸度が高い果実の収穫割合が高く、食味が低下する（表 1）。
3. ハウス栽培における 10 月下旬以降の花芽誘導処理時期では露地栽培にくらべ、商品価値の高い大果の適熟果が高い割合で収穫でき、裂果の発生を抑制できる（表 1）。
4. 露地栽培は、10 月下旬の花芽誘導処理時期から糖酸比の高い果実の収穫割合が高くなるが、果実比重の大きい過熟果が収穫されやすく、収益性が低下する（表 1）。
5. 今回の結果を基に一作当たりの収益性を評価した結果、露地栽培は 333,333 円/10a、ハウス栽培では 784,673 円/10a となり単位面積当たりおよび労働時間当たりのいずれにおいても収益性が向上する（表 2）。
6. 夏植えた株に、翌年の 10 月下旬から花芽誘導処理し、11 月中旬からビニール被覆することで糖酸比の高い高品質果実が 5 月中旬から収穫でき（図 2）、露地栽培の自然夏実の収穫時期にくらべ、2 ヶ月間前進化が図れる。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象：施設栽培を行っているパインアップル生産者
2. 普及予定地域・普及予定面積・普及台数等：沖縄県本島北部地域 4ha
3. その他：
 - 1) 本島北部地域での「ゴールドバレル」の夏植えハウス栽培－促進夏実体系に活用する。
 - 2) 花芽誘導はエテホン 1,000 倍と 3%尿素の混合液を午後 3 時以降にパインアップル株の芯部に 30ml/株を 1 回灌注する。

